

パワーシフトを進めよう!

各地で学習会を開催 「パワーシフト見える化アクション」展開中

「自然エネルギーの電気を選ぼう!」(3/26 ネット青葉主催) 「デンキを選べば社会が変わる!」(3/25 ネット平塚主催)



缶バッジ、マグネット、ステッカー、リーフレットも配布中です。ご希望の方、お問い合わせください。

神奈川ネット事務局
☎045-651-2011
Email: kgnet@kgnet.gr.jp

伊勢原 地域のうでぎ

地域の居場所学習の場 「(仮)らんらんクラブ」スタート

浜田順子(ネット伊勢原)

「地域の中に子どもから高齢者までの居場所がほしい」という思いが、今年、実現に向けて動き出しました。生活クラブ運動グループの仲間と、昨年からは、横浜市内等のW・Coが運営している多世代が集える居場所を何か所か見つけてきました。

1年ほど前には、伊勢原駅前近くの空き家になった自宅を活用してほしいという申し出がありました。さらに11月には市内在住の外国籍の生徒が定時制高校受験のために学習支援を求めている情報が入りました。そこで高校教師OB等がボランティア講師となつて、12月から学習支援を始めました。そ



▲学習の様子

してこのほど、受験合格のうれしい知らせを受けました。子どもたちの貧困が大きな課題となっており全国的に学習支援の場が開設されています。外国籍の子どもや学習障害等、学習支援が必要な子どもたちは多いと思われまます。さらに、子育て中の若い人たちも含め、多世代が集い、気軽な相談などにも応じられるような場所となるよう活動を拡げていきます。

18歳の自立を応援する

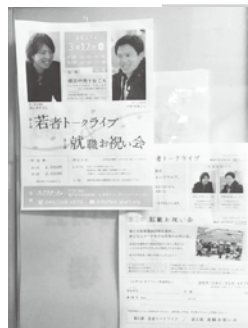
竹中麻美(ネットいづみ準備会)

NPO法人フェアスタートサポート(市民社会チャレンジ基金第23期助成団体)による若者トークライブ&新社会人就職お祝い会に参加しました。

トークライブでは、これまでフェアスタートサポートで就労相談・支援、フォローを受け、現在社会で活躍する若者自身によって、その体験と将来に向けてのメッセージが語られました。児童養護施設を卒業して18歳で自立することは、働くことはもちろん、住む場所、食べること、人間関係など多くのハードルがあります。「まずは1年頑張る、どうしても苦しいときは自分が信頼する人に相談する」という若者の言葉に自立の一步を感じました。市民社会チャレンジ基金の助成が彼らの自立の一助になっているようです。

施設出身者は離職率が高く、就職後3年で5割以上が離職しているというデータもあるそうです。フェア

スタートの活動が、地元企業との協力を得て、マッチングの効果によって満足度の高い就労につながっている様子がうかがえます。また、施設との信頼関係も丁寧に築いているようです。



今回は、協力企業の関係者、里親支援の団体、施設出身者の自助グループ、施設の子どものためのイベント企画の団体、施設支援の団体、施設職員、施設出身の社会人など、多様な分野で施設の子どもの関わりと関わる団体の参加がありました。顔の見える関係で切れ目のない支援を行う体制が、子どもたちの自立を支えていくために最も必要です。

共に生きる 2017年度一般会計予算に賛成

県議会

佐々木ゆみこ(ネット宮前/県議)

昨年10月、神奈川県は「ともに生きる社会かながわ憲章」を制定しました。私は、多くの市民と差別なき社会をめざしていこうとする憲章と認識しています。

現状は、障がいを持つ人の生活の場は限られ、相対的貧困層の拡大や外国籍市民への理解が十分に拡がらないなど、多くの課題があります。

子どもたちが違いを認めあい、学びあう姿勢を成長の過程で経験できる環境を整えていく必要があります。誰もが未来に希望が持てるよう、地域の学校や保育所など

のバリアフリー化の推進、チームティーチングなど弾力的に行うための予算措置、さらには障がい児教育を推進するための特別支援教員の増員などにも積極的に取り組む必要があります。

また、就学援助制度の運用にあたっての自治体格差の解消や、一人ひとりのアイデンティティを大切にすることも民族文化を大切にしたいと考えています。

これらの課題へのさらなる取り組みを求め、2017年度一般会計予算に賛成しました。



特定非営利活動法人らいぶららら 人と本と図書館を結ぶNPOとして

理事 谷畑理恵(市民社会チャレンジ基金第11期助成団体)



認定NPO法人らいぶらららは、相模原市立図書館勤務の非常勤特別職(司書)が専門知識や経験を活かし、人と本と図書館を結ぶ活動がしたいとの想いから、2005年10月に発足しました。2006年にNPO法人を取得、2013年に認定NPO法人として認証を受けた団体です。

本を通して心豊かな生活を送りたいと願う人と図書館を結ぶNPOとして、相模原市立相模大野図書館の窓口業務等の受託、1組の親子に1人のボランティアが親子で絵本を開く楽しさを実感してもらおう事業「ブックチャンス」、「絵本の中の料理を作る会」の開催、エフエムさがみでの本の紹介など様々な事業を行っています。

市民社会チャレンジ基金を頂いたのは早いもので10年以上前、助成金の申請の方法など全く分からないまま、ただこの活動を始めた想いと熱意を伝えようと申請書を必死で書いたことを思い出します。

図書館受託事業は3年ごとのプロポーザルを経て、昨年10月より4期目の受託が始まりました。この間に図書館内でのコンシェルジュの配置や図書館活用講座の開催、館内のトータルデザイン、お客様をお迎えするウェルカムボードの設置、読書週間や記念事業のパッケージ企画などを行ってきました。競争相手は全国規模の大手民間会社であり、委託を取り続けることは年々厳しい状況にあると感じています。その中でもNPO法人として、相模原市で活動する団体や機関と協働し、市民と行政を支える地域に根差した図書館サービスの提供、市民の目線に立った市民性を活かした図書館運営を今後も目指していきます。

http://live-lib.jp/

編集後記

「主要農作物種子法」は、都道府県が稲・麦・大豆の種子について、優れた特性を持つ品種を奨励品種に指定して生産することなどを義務付け、日本の食糧自給を支えてきた▼ところが、衆院農林水産委員会は、同法を廃止する法案を可決。廃止により公的機関による育種が後退し、種子の安定供給や、民間の参入機会が広がることで外資の多国籍企業による種の独占が懸念される▼また、都道府県の知見を民間に提供することで遺伝資源の開放につながる心配や、民間の開発コストの上乗せが種子の価格高騰につながる恐れもある。日本農業の未来が危ない。

神奈川ネットは、地域の課題は政治に直結しています。国の政党が、地方の政治までコントロールするのはなく多様な地域政党が政策を競い住みやすいまちをつくる社会をめざします。



今月の神奈川ネット

■市民の生活・活動法律相談: 4/19(水)5/17(水) ■ピースリングツアー 横浜・横須賀コース: 4/21(金) ■第2回運営委員会: 4/25(火)